

徳洲会グループ

健診バス事業が堅調

開始1年で6万人が受診

徳洲会グループが各地で実施している巡回健診バス事業が堅調に推移している。8病院でスタートし、現在、12病院までに拡大。開始から1年で総受診者数は古河病院（茨城県）の1万7000人を含め約6万人に上る。病気の予防や早期発見・早期治療への意識が高まるなか、2年目を迎え、さらに健診バスへのニーズが高まりそうだ。



古河病院の巡回健診バススタッフ。臨床検査技師、看護師、放射線技師らが同行



「最近、街中で健診バスを見たという方からの問い合わせや申し込みが増えています」と大山・統括マネージャー

時の支援体制を強化したりするのが健診バス導入の目的。

同事業は、X線撮影装置などの検査機器を搭載した車両が、企業などを訪問し、健診を実施するサービス。訪問先の一角で、血液検査や視力・聴力検査、身長・体重・腹囲などの測定も行う。

巡回健診バス事業を開始したのは昨年4月。医療機関にかかる機会が少ないワーカー層を中心に、病気の予防や早期発見・早期治療の重要性を地域に広めたり、被災地でのけがや病気の検査など、災害

一般的に、健診は医療機関に足を運んで受ける。勤労者の場合、長時間仕事から離れなければなら

測定結果をいちいち読み取らなければならない。数値が自動でコンピュータに転送されるため、測定結果をいちいち読み

第17回 南の島便り



宮古島徳洲会病院 酒井英二院長

スポーツアイランド宮古島

宮古島は沖縄本島の南西約300kmに位置し、島の周囲は約100km、人口は約5万5,000人です。島全体が平坦で、最も高い所でも標高115m。川がないため、赤土などが海へ流出せず、美しい海を保っており、マリンスポーツが盛んです。琉球列島のなかでは、ハブのいない島としても有名です。

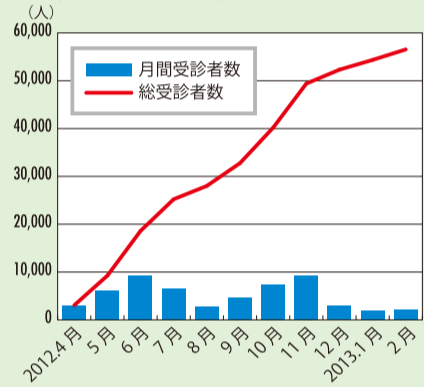
本格的な夏になると、毎週のように台風がやってきます。1966年には観測史上第1位の最大瞬間風速85.3m/秒を記録しました。

島では国内屈指の人気を誇る全日本トリアスロン宮古島大会が行われるほか、オリックス・パファローズのキャンプや、ツール・ド・宮古島、宮古島100kmワイドマラソン、ビーチバレー宮古島大会、エコアイランド宮古島マラソンが開かれるなど「スポーツアイランド」として定着しつつあります。ゴールにたどりついた選手を住民がもてなす姿からは、宮古の人たちの温かい気質をうかがい知ることができます。



宮古の絶景をめぐるトリアスロン大会

巡回健診バスによる健診受診者数の推移



上げ、記録していく必要がない。

これまでの総受診者数は約6万人に上る。月間では、時季によってばらつきが見られるが、健診ニーズが高い春と秋には

約1万人に上る月もあり、総じて堅調に推移している(図)。

12病院中、際立っているのが古河病院だ。企業や福祉施設、公的機関などを対象に巡回健診バス事業を展開し、昨年度は受診者数1万7000人という実績を誇る。

好調の理由を同院健診センターの大山哲史・統括マネージャーは「サービスの質が向上したからだと思っています」と分析している。

同院では従前から巡回健診バス事業を実施していたが、車両を外部業者から有料で借りていたため、さまざまな課題を抱えていた。具体的には、①空き車両が

約1万人に上る月もあり、総じて堅調に推移している(図)。

12病院中、際立っているのが古河病院だ。企業や福祉施設、公的機関などを対象に巡回健診バス事業を展開し、昨年度は受診者数1万7000人という実績を誇る。

好調の理由を同院健診センターの大山哲史・統括マネージャーは「サービスの質が向上したからだと思っています」と分析している。

同院では従前から巡回健診バス事業を実施していたが、車両を外部業者から有料で借りていたため、さまざまな課題を抱えていた。具体的には、①空き車両が

同院では従前から巡回健診バス事業を実施していたが、車両を外部業者から有料で借りていたため、さまざまな課題を抱えていた。具体的には、①空き車両が

瀬戸内徳洲会病院

お日さまの下で元気にすくすく

院内保育所が開設1周年

瀬戸内徳洲会病院(鹿児島県)の院内保育所「ていだっ子」がこのほど、オープン1周年を迎えた。同保育所は子育てと仕事の両立支援の一環として昨年4月に開設。保育所名は奄美大島地方の方言「お日さまのもとで元気に育つ子=ていだっ子」から名付けられた。

利用対象は職員の子どもで、利用時間は午前8時~午後7時。栄養科で作成した献立をもとに、バランスの良い食事が提供される。授乳が必要な0歳児には、仕事の合間に母乳を与える時間が取れるようになっている。また、病気の時は小児科の医師が対応するなど、母親が安心できる環境が整っている。

同保育所の開設により、出産や子育てを理由に退職した看護師が再就職。今年4月から保育士が増え、利用者数が増加したことから、同院では潜在看護師のさらなる発掘に期待を寄せている。院内に併設されている通所リハビリテーションの利用者さんが子どもと触れ合うこともあり、良い刺激になっているという。勇ほずみ保育士は「今後も母親が安心して働けるようにサポートしていきたい」と思いを語った。



子どもが近くにいる、仕事に集中できる環境が女性職員に安心感をもたらす

施設だより

小学生絵画展を主催

館山病院(千葉県)

当院には院内の通路を利用したギャラリーがあり、年間を通じて地域の方々の芸術作品を展示しています。当院は地域密着型病院として120年余の歴史がありますが、病院を訪れるのは高齢の方が多く、若い世代とのつながりがあまりありませんでした。そこで若い世代に当院を認知していただき、地域の方々とつながりをつくると同時に、小学生との交流の手がかりとするため、絵画展を企画しました。

教育委員会、学校職員の方々と、数多

この感動を忘れずに、絵画展を継続していきたいと考えています。

メンタルグループマネージャー・友野文雄

ドクターカーの合同訓練

中部徳洲会病院(沖縄県)

を毎月実施しています。沖縄市山内出張所でこのほど実施された訓練は、いざという時にドクターカーが先着の事案設定で、2症例を行いました。1症例目は「路上で60歳男性が車にひかれ意識なし」、2症例目は「10階建てオートロックマンション9階の室内で、年齢不詳男性が喘息発作」という設定でした。

訓練を重ねた救急隊などと顔の見える関係を築き、信頼を深めることができるとしています。ドクターカー運用を通じて地域の方々に安定した医療が提供できるよう、今後も頑張ります。

地域医療連携推進主任・大城実



ドクターカーの合同訓練の様子



ドクターカーの合同訓練の様子